

科・ぼ・せ・ん News Letter

2023.4.4 発行



<https://ridai-svc.org/>



モンゴル国立教育大学附属高校にて

「はじめてみよう！科学ボランティア」

高原 周一

(たかはら しゅういち)

科学ボランティアセンター センター長

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。私は科学ボランティアセンターおよび基盤教育センター（基盤教育科目を担当する部署）に所属しており、専門は物理化学です。

科学ボランティア活動（地域での科学イベントなど）をするようになって18年目、すっかりライフワークになりました。最近は科学教育用の教材研究やモンゴルとの国際交流活動にも力を入れています。科学ボランティアセンターは学生の科学ボランティア活動をサポートする全国的にも珍しい組織です。皆さんがワクワクできる、仲間と一緒に成長できる、そんな機会を少しでも多く提供できればと思っています。ぜひ一緒に活動しましょう。

科ボラの快進撃が また、始まる

新型コロナウイルスの猛威で活動も制限せざるをえない3年間の過ぎ、いよいよ科ボラも本来のアクティブさを取り戻せる日が近づいてきています。

ここでは、現在わかっている科ボラの今年の注目ポイントをお伝えします！

【科ボラ 15周年記念イベント】(8/11)

「サイビアわくわく科学フェスティバル×理大の日スペシャル」を拡大して行います。今年にはOBOGも手伝い/アドバイスしてくれます。ミニ講習会、祝賀会もありますよ！

【アメリカの大学との国際交流】(6/28)

復活します！英語を使つての科学実験ショーは他にはない思い出深いイベントになることでしょう。（理大で実施）

【モンゴル訪問】(9/6~17)

今年はなんと12日間！（8日コースもあり）どこまでも広がる草原は一生に一度は行ってみたい場所ですね！教育大や中高でショーや授業をします（詳しくは2ページを）

【うかん科学あそびランド】(6/11)

今年はバスにも定員通り乗れるようになるので、大勢で楽しみたいですね。あの解放感。そしてまかないカレーも楽しみ！

【わくわく仮説実験教室 OB 講師デビュー】

みなさんの先輩で教員になっている人が3人、今年「わくわく」講師デビューします！

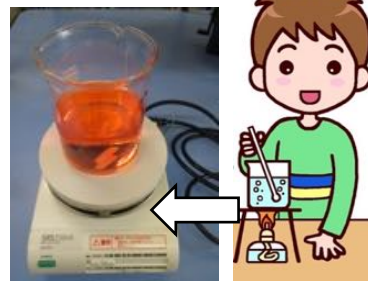
・・・さあ、おもしろい1年になりますよ！

科ボセンにある使える備品

科学ボランティアセンターが所有する、楽しい、使える道具や機器たちを紹介します。

Vol.3《ホットスターラー（攪拌機）》

ビーカーをバーナーで熱しながら、ガラス棒でかき混ぜるのは面倒。『溶解』に必要なく加熱とく攪拌（かくはん）を同時にやってくれます。ビーカーをヒーターで温めながら、ビーカーの中の磁石になっている「攪拌子」を磁力で回転させます。最初にこれに出会ったときは、こんな便利なものがあるのかと驚きました。



Vol.4《スモークマシン（煙発生装置）》

演劇やコンサートでも大活躍のスモークマシン。以前は右側の大型のものしかなかったのですが、昨年度左側の小型軽量「Antari_Z800 II」を2台手に入れました。光や空気の流れの実験で使用しますが、特に科ボラでは空気砲で大活躍です。空気砲から出る輪っかに、子どもたちも大興奮間違いなし。使用時は、周りに煙で迷惑かけないこと、会場が煙NGのところも多いので要注意です。なおこの煙は吸っても安全なものです。



(コーディネーター 糸山嘉彦)

∴ 学生スタッフ会メンバー紹介 ∴



〔副会長〕 おかやま

理学部生物化学科 3年生
(石川県出身)

皆さんこんにちは！科学ボランティアセンタースタッフ会の岡山です。

私は、科ボラには「なんとなく入ってみようかな」くらいの軽い気持ちで入りました。科学が得意なわけでも、話すのが上手いわけでもありません。**むしろ人前に出て話すなんてもってのほかでした。**ですので、最初はボランティアに参加しても「私には向いてない」と感じる事が多くありました。

そう思いながらも**ボランティアに参加するにつれ、科学の面白さとそれを伝える楽しさを知りました。**イベントで何をしようか悩んでいると、先輩や先生が「こんな実験もあるよ!」と楽しそうに教えてくれるので、私も楽しく面白く学ぶことができました。それに、イベントでミスしてしまっても、先輩や先生方が手を貸してくれたり、アドバイスをくれたりするので、こんな私でもなんとかやれていますし、**また挑戦してみようと思えます。**メンバーには本当に感謝しかありません。

これからもみんなが「今日楽しかった！科学って面白い！」と思ってもらえるようなショーやブースを作れるように頑張っていきたいです。**科ボラは苦手なことを好きに変えら**

れる場所ですし、色んなことに挑戦できる場所でもあるので、これからも手を貸してもらいながら挑戦していき、今後は私が手を貸してあげられるようになっていきたいです。



↑モンゴルでの科学実験交流(9月)



〔総務〕 ゆき

理学部生物化学科 3年生
(岡山県出身)

こんにちは！科学ボランティアセンター学生スタッフ会の岡崎です。

科学ボランティアセンターでは様々な科学イベントに参加し、地域の子どもたちに科学の魅力を伝えていく活動をしています。イベントに参加することで、子どもたちと楽しく科学の面白さを伝えられるのはもちろん、社会人としての経験も得ることができます。

私は昨年、**京山祭という大きなイベン**

トの責任者として主催者の方とコンタクトを取らせていただきました。重要なメールのやり取りや多くの出展団体のいる中で科学ショーをすることは初めての経験であり、とても緊張したことを覚えています。反省点も多くありましたがとてもいい経験になりました。**このような経験は、科学ボランティアに入っていたからこそ得られたものであり、普段消極的な私にとってはいい刺激になり自信につながった**と思います。

子どもたちと一緒に科学に触れ合えること、大人と一緒に科学の魅力を伝える活動ができることは今しかできないと思うので、今後も**科学ボランティアでしか得られない経験**を積んでいきたいです！



◆2023年度もモンゴルを訪問します◆

日程：9月6日～9月17日

※9月10日～17日の短縮コースもあり

費用：約21万円 ※短縮コース18万円

※センターから若干の補助有

場所：ウランバートルなど

募集人数：5名程度

申込期限：4月末（早めが良い）

内容：現地の大学生等との交流、イベントへのブース出展、現地の生徒に対する授業、授業見学、観光など

使用言語：現地の学生・生徒との会話は英語が基本

一緒に行きたい or 興味があるという方は早めにセンター長：高原先生まで連絡してください。（若干の変更の可能性有り）

::: 学生スタッフ会 OB/OG 紹介 :::



わっくん

千葉県千葉市立中学校勤務
(理科担当)

岡山理科大学 理学部 基礎理学科
(2019 年度卒業)

科ボラ在籍 2017-2019

** 近況・仕事内容 **

2019 年度卒業の 16 回生、基礎理学科の“わっくん”こと坂田航です。

科ボラ時代は頭に鍋を落としたり、踊ったり、【フリー素材】になったりと様々なことがありました。笑

現在は千葉県千葉市で中学校理科教員をやっています。昨年までは、神戸市で 2 年間担任もやらせていただきました。「卒業後 2 年間神戸にいたのに、今は千葉...」? となりますが、教員なんてきつとそんなものです、たぶん...知りませんが。

実際、どこにいても変わらない仕事というのは本当で、関西弁と標準語の壁“以外に”大きな障害なくやっています。

では、どこにいても変わらない仕事というのが何かというと、理科を教えること、もそうですが、一番は子供たちと関わるということとです。

私で言えば、どこに行っても中学生と関わり続けることに変わりはありません。向こうからやってくる子、表現が苦手な子、...ませている子も含めて！

** 科ボラの思い出 **

科ボラでやっていた活動は大まかに言ってしまうとこの延長でした。

当時の活動でのやり取りは、確実に今の私の行動に影響を与えています。 たぶんいい方に。

(当時と今を比較して、やっていることもテンションも大して変化がないので...)

実際、2 回生からボランティアに参加するようになった私でしたが、関わってしまったメンバーが良かったのか、...悪かったのか...毎週のようにボランティアに参加し、気が付いたら始終ボランティアに参加し、知らない間にボランティアに参加、不思議デラシイ毎日デシタ。

そんな中でも、思い出に残っているボランティア活動というのが 2 つあります。1 つは初めて本格的に参加することになった「うかん科学あそびランド」での大雨の一日。今も関わり続けるメンバーと最初に対面したのがここだったこともあって、今でも思い出せるくらい印象に残っています。

ブースの先輩には不慣れ過ぎてたくさん迷惑をおかけした気もしています。今思えばあそこが引き返すチャン s...いや、ターニングポイントになっていたんだと思います！笑

もう 1 つは鍋です...!?! 鍋、ですね。何故かものは「鍋と言えば私」と、当時のボランティアメンバーから思われているんじゃないかと思うまでの「鍋落とし」。慣性のショー“慣性で大歓声”です。化学

科の某 SS さんとともに考えたショーでしたが、最終的には私が自ら糸を引っ張り、自分の頭に鍋を落とすという、自傷ムーブをすることになっていました。それでもたくさん頭を捻ったこともあり、いい思い出になっています。

そしてあのショーから学んだことがもう 1 つあります。それは**〈手綱を握ることの大切さ〉**です。しっかり手綱を握ったつもりでも、それ以上の力で動き回る場合は**どうしようもない**、ということも一緒に学びました。これが活動を続けた中で一番の経験でした。というのは流石に冗談ですが(笑)

** 後輩へのメッセージ **

途中でも話した通り、**ボランティアでやり続けていた“子どもとの関わり”は、いま確実に生きています。**中学生相手でも変わらず、**子どもの方を見て、関わり、話す。**これから先生を目指している人は、是非どんどん子どもと関わってあげてください。先生にならない人も、**人を見て、相手を考えて、話す。その行動はどこで何をしていても必要になると思います。**

以上、卒業した当時の変わり者からでした、ありがとうございました。

[写真は学生時代 📷]



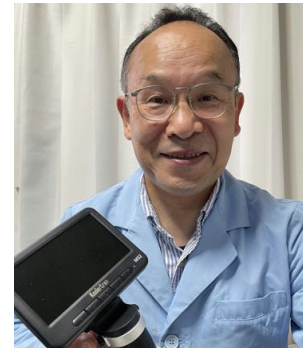
科学ボランティアセンターコーディネーター紹介

B4号館の1階（階段を降りたところ）には、科ボラの事務室、学生スタッフ会ミーティング室、実験道具倉庫などがあります。コーディネーターの在室は不定期ですが、気軽にのぞいて話しかけてみてください。それぞれ得意分野があり、いつも「おもしろいこと」を考えています！「こんなの、どう？」「いいねえ！それ、やってみよう！」という声が、きっと返ってきますよ！



糸山 嘉彦(いとやま よしひこ)

コーディネーター歴6年半、日頃はプラネタリウムもある「人と科学の未来館サイピア」で、校外学習で来館する園・学校の子どもたちや一般の方向けに、サイエンスショーや科学工作などを行っています。理大の化学科卒業で学生時代は児童文化部に所属。今でも、子どもたちと科学工作や科学あそびで楽しんでいます。



春日 二郎(かすが じろう)

科学ボランティアセンター唯一のキャンパス内で行う主催行事「岡山理科大学で学ぶ自然教室」を担当しています。花・セミ・貝・ドングリ・クモの巣・ひっつき虫などの標本作りから、紙・布・化石レプリカの作成、ウミホタルや染織などの実験・実習を行います。Wi-Fi顕微鏡を活用しています。



三木 淳男(みき あつお)

幼児から高齢者まで、ほとんどすべての年齢のヒトビトに、楽しい科学(理科)の授業やおもしろ実験などを実施してきた経験あり。物理・化学・生物・地学のどの分野も好きです。学生のみなさんと一緒にあれこれ実験を試すのも好き。趣味は各地の砂や火山灰を顕微鏡で観察すること。元中学校理科教員。



岡崎 則武(おかざき のりたけ)

コーディネーター2年目です。それ以前は、高校で「情報」「電気」の教員をしていました。昨年からは科ボラでもプログラミング系が盛んになってきました。レゴやドローンは子どもたちに大人気です！また学生向けに「ITパスポート試験」の講習会もしました。今年も科ボラの活動の幅を広げていきたいです。